

持続可能な開発目標 SDGsと 美術教育

今回は、持続可能な社会に
つながる、
SDGsと美術教育について、
「美術資料」の
著者・横田 学 先生からの
ご提案を紹介します。



よこた まなぶ
横田 学 先生

プロフィール

これまでに、京都市立芸術大学教員(2002~2020年)、京都府立学校教諭、京都府教育局指導部学校教育課指導主事、高等学校学習指導要領解説作成協力者(文部科学省)、評価規準研究開発協力者(国立教育施策研究所)、中央教育審議会教育課程部会芸術ワーキンググループ委員などに携わる。現・京都市立芸術大学名誉教授。

持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals) とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

Q.1 授業とSDGsを、どのように関係付けるのでしょうか?

A SDGs の 17 の目標を見て、どう思われますか。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「安全な水とトイレを世界中に」…。これらは、言葉としては理解できても、自分たちの生活とは別の世界のことと考えている生徒もたくさんいるのではないかでしょうか。



SDGs が目指しているのは、私たちも含めたすべての人々に関わる課題です。日本に住んでいると意識しにくい目標でも、暮らしの中で常に SDGs に関心を持つことで、日常の体験や気付きから意識を変化させたり、自分にできる

ことに気付けたりすることもあります。美術の授業と SDGs についても、大きく次の 2 つの関係が考えられます。

- ①普段の美術の授業で常に関わることとして
- ②表現や鑑賞の題材やキーワードとして

■SDGs と ESD (持続可能な開発のための教育) の関係は?



「質の高い教育をみんなに」が SDGs の目標の一つとして位置付けられているだけでなく、ESD は、SDGs の 17 すべての目標の実現に寄与するものです。持続可能な社会の創り手を育成する ESD は、持続可能な開発目標を達成するために不可欠である質の高い教育の実現に貢献するものとされています。

Q.2 どのように普段の授業の中で関わればよいのでしょうか?

A 美術の授業では、他の教科と違い、教科書やノート、筆記用具以外に多くのものを使って(消費して)います。



特に表現の学習においては、使用する材料の多くは自然の素材やそれらをもとに加工されたものです。これらは、国内で生産されたものだけではありません。どこの国や地域で、どのように育てられ生産されたのでしょうか。さらに、どのような人たちが、生産や流通に関わり、どのような暮らしをしているのでしょうか。

また、授業の終わりの後片付けの際、ゴミ箱に入れたものは、その後どうなるのでしょうか。さらに、筆やパレットを洗った水が流れていく下水は、川や海にもつながっています。



材料の生い立ち、使った後のゴミや汚水の行方などを常に意識させる指導は、生徒自らが持続可能な社会を目指すために、何ができるかを考えるきっかけになるでしょう。



Q.3 SDGsに関連した表現や鑑賞の題材とは、具体的に『美術資料』のどの題材でしょうか？

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

A 以下の表が『美術資料』の各ページとSDGsの関係をまとめたものです。

表にあるSDGsとの関連を参考にしながら、「平和」「人権」「自然」などをテーマに授業を展開したり、デザインや工芸の学習では、「サステナブル」「ジェンダー」「安全」「健康」「伝統文化」などをキーワードにしたりしながら授業を行ってみてもよいでしょう。

タイトル	関連する主なSDGsの目標	SDGsとの関連
P.4-6 色の整理		色が感情にもたらす様々な効果など、色の機能を実感的に理解する。(反ステレオタイプ)
P.7-8 配色の工夫		
P.9-10 絵の大図鑑		材料や用具の成り立ちを知り、自然と、素材や材料の関わりについて関心をもつ。
P.12-13 材料と用具大図鑑		
P.20-21 作品を飾る		生活の中の美術に目を向け、美術文化の果たす役割について考える。
P.32-35 人物を描く		自己や友達を見つめることにより、一人一人の個性や、違いと共通性などについて考える。
P.36-37 静物を描く		ものや自然を見つめ、そのよさや美しさを、自分の価値観で捉える。
P.38-39 風景を描く		
P.58 そっくりにつくる／ボックスアートで表現		対象や素材と向き合うことによって、使用するものの製造過程や素材と自然の関わりについて目を向ける。
P.59 素材を組み合わせて		
P.64-65 文字のデザイン		
P.66-67 マークのデザイン		
P.68 イラストレーション		情報のよりよい伝達やコミュニケーションに目を向け、相手の立場に立った思考や、文化の多様性について考える。
P.70-71 ポスターをつくる		
P.72-73 絵本をつくる		
P.74-77 木でつくる		
P.78-79 金属でつくる		
P.80-83 烧き物をつくる		自然の素材を生かした制作を通して、自然と共に持続可能な生活への関心を高める。
P.84-85 紙でつくる		
P.86 明かりをつくる		
P.87 染める・織る		

タイトル	関連する主なSDGsの目標	SDGsとの関連
P.98-99 美術のはじまり		多産・豊饒など、生きることへの切実な願い、生命と美術の関わりなどに目を向ける。
P.122-124 パブロ・ピカソ(ゲルニカ)		「ゲルニカ」の制作背景から平和について目を向けるとともに、創造の喜びなど美術の果たす役割について考える。
P.134-135 伝統の色		伝統色や伝統文様の成り立ちを知ることから、自然への関心を高め、自然との共生について考える。
P.136-137 伝統の文様		
P.138-139 生活のデザイン		すべての人の暮らしを豊かにする、文字どおりサステナブルな考え方で自分の身の回りのものを見る。
P.140 平和のポスター		ポスター「ヒロシマ・アピールズ」から、色や形、イメージで思いを伝える、デザインの機能について考える。
P.141 世界の仮面		異なる国や地域に息づく文化・生活に目を向けるとともに、文化の多様性について関心を高める。
P.142-143 伝統工芸		自然とともにづくりの文化の関係や、地産地消について知るとともに、文化の継承や創造について考える。
P.144-145 手づくりの技		
P.146-147 文化財の保存と修復		文化財をとりまく環境の変化に目を向けるとともに、国際理解や美術文化の継承と創造について考える。
P.148-149 木の建築・石の建築		建築物や街中にある美術から生活環境と美術について考えるとともに、生活環境への関心を高める。
P.150-151 パブリックアート		
P.170-171 美術から広がる仕事		社会や生活の場面における美術の役割や機能に目を向け、労働の大切さや共生について関心を高める。

Q.4 先生方へ、メッセージを！

A

新しい学習指導要領では、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成することの充実が求められています。SDGsに関わる取り組みも単なる知識ではなく、生徒自身が実感できるものとなることが大切です。普段の美術の授業も少し見直すだけで、SDGsの目標に貢献できることがたくさんあるはずです。皆さんも、どのような実践ができるか考えてみてください。

秀学社の美術学習サポート

授業だけでなく家庭学習などにもご活用ください。 随時更新中です!

美術資料 どっこむ

●『美術資料』とあわせて使える
デジタルコンテンツを提供しています。

デジタルコンテンツ
「美術資料どっこむ」
<https://www.bijutsushiryo.com/>



秀学社Webサイト
<https://www.shugakusha.co.jp/>

●『美術資料』の詳細や、ワークシートなど
各種ダウンロード資料を提供しています。



今号へのご意見や著者への
メッセージ、ご質問など、
「お問い合わせフォーム」

よりお気軽にお寄せください。
お問い合わせフォーム
https://www.shugakusha.co.jp/form_otoiawase/

先生の声を
お聞かせください。

